



R5年12月4日付け  
有明新報掲載記事

# 自立し活躍できる子に 万田小が研究成果発表

荒尾

「誰もが活躍し、子どもが自立できる学校」の具現化に向けた学校運営のあり方」を教育目標に取り組んできた荒尾市万田小学校で11月22日、研究発表会が開かれた。授業や地域との連携を通して子どもたちの主体性を育てる取り組みについて広く発信した。

同校は玉名荒尾地区教育委員会連絡協議会と同市教育委員会から、2022〜23年度の研究推進校に指定され、「社会に開かれた教育課程」を実現させるカリキュラムマネジメントの実践と当事者意識を持った学校運営体制の構築を進めてきた。

発表会には学校教職員や教育行政関係職員など約250人が訪れ、九州だけでなく滋賀県や高知県からも参加があった。初めに教職1〜5年目の教諭4人による授業を公開。児童主体による授業の振り返り「ミニ事後研」の様子も見せた。

続いて「公開学校運営協議会」として、学校運営協議会委員15人と児童会役員6年生16人によるワークショップ形式の「熟議」が行われた。万田校区のこれからの地域づくりと自分ができることを各グループで話し合い、「あらかお海陽スマートタウンや万田坑をコースにしたマラソン大会を開く」「南新地のオリジナルキャラを作る」「ごみを拾ったり、あいさつをしたりして地域のイメージアップを図る」などのアイデアを発表。来場者は、児童が大人と共に地域の未来を描きながら活発に意見を出し合い、考えをまとめる様子を熱心に見学していた。

(河野美緒)